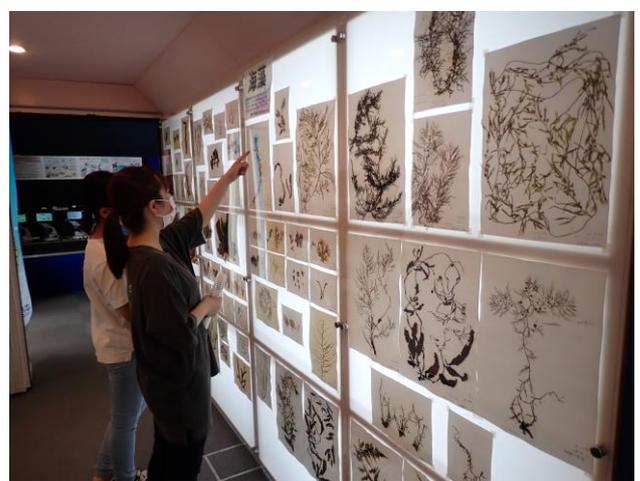


関崎海星館

開館 25 周年記念企画「こんなにすごい！関の海」に向けて のトライアル事業

実施期間：2020年2月1日（土）～2020年6月30日（火）



【事業の内容・目的】

- 2020年夏以降に本格実施する開館 25 周年企画に向けたトライアル事業。2020 年度も事業を継続し、その成果物を館内に展示することで多くの市民と成果を共有する。
- 様々な立場や年代の人々が交流しながら、佐賀関の海の豊かさと自然が抱えている課題を体感し、人と自然のつながりを意識する感性を育てる。
- 自分たちの生命や暮らしを支えている生きものに目を向け、生活を見直すきっかけとなる。

活動の様子

1. 海の安全講習&海ごみワークショップ

【開催日時】2020年6月7日(日) 11:00 ~ 17:00

【開催場所】黒ヶ浜、佐賀関公民館

【参加者数】14人

【活動内容・目的】

- 海上保安官から海で遊ぶ時の注意点や救命の仕方を学ぶことで、家族や友達とより安全に海で活動することができる。
- 海岸清掃やワークショップを通じて自分たちの暮らしを見直すとともに、人間の消費活動によって被害を受けている自然や生きものに気づく。



開催場所の全景



集合写真



海上保安官から、海で遊ぶ時の注意点、救命胴衣の大切さと着用時のポイント、溺れている人の救助法、心肺蘇生の基本などを教わった。実際に起きた海の事故の話聞き、海に行く前に天気予報や潮の干満をチェックし、離岸流に遭遇しても慌てないことや、溺れた人を見つけた時はまず助けを求め、救助ロープを投げる時は端を踏んでおくことなど、海での心構えを伝授された参加者は、真剣な表情で話を聞き、体験していた。



昼食後、15分ほど海岸のゴミを拾い、一般社団法人 JEAN の指導の下「国際海岸クリーンアップ」の調査体験をした。たくさん落ちているプラスチックパイプやリングが広島県のカキ養殖で使われているもので、世界中に拡散して問題になっているが、かつては竹を利用していたことなど、特徴的なゴミについての説明も受けた。参加者は、ゴミがもう一度海に出してしまう前に、今ここで拾うことの大切さを実感していたようだった。



場所を公民館に移し、一般社団法人 JEAN による海ゴミのお話と体験学習を実施。人間が排出したゴミによって海の生きものたちが受けている被害の実態や、特にプラスチックごみが問題視されている理由などを、疑似体験や共同作業を交えて分かりやすく解説してくれた。参加者は海の生きものに網などが絡まると簡単に抜け出せないことや、海鳥が餌と間違えて食べてしまうプラスチックの量、海を漂うゴミは街や畑からも出ていることなどを学んだ。

【参加者の声】

- 想像以上にプラごみが多く、プラスチックでなくても良いものが身の周りに溢れていると感じた。海を守るために自分たち一人一人ができることを少しずつでも行っていくことが大事だと改めて実感できた。
- 人間が出したものでたくさんの生きものに迷惑をかけてごめんなさい。
- ゴミをきちんと捨て、プラスチック（レジ袋やペットボトルなど）をあまり使わないようにしたい。

※上記写真等は特別な許可を得て撮影されたものです。無断転載等はいけません。

2. 関の海の自然・活動紹介ブースの設置

【開催日時】2020年6月1日（月）～2020年6月30日（火）

【開催場所】関崎海星館

【参加者数】3524人

【活動内容・目的】

- 新型コロナウイルス感染症の影響で中止になったイベントの内容や佐賀関の自然を広く来館者に紹介する。
- 身近な海を多角的に見つめることで、来館者に新たな発見の機会を与え、海への興味関心を高める。



微生物・貝類・植物・海のコーナー



鳥類・蝶のコーナー



5月～6月上旬は海を渡る蝶・アサギマダラが当館に飛来するため、詳しく紹介するコーナーを設けた。小さな体で大海原を渡っていく姿に、来館者は生命の不思議さを感じ取っているようだった。

海藻のコーナーでは、佐賀関周辺で採集された海藻の標本約70種を展示。瀬戸内海と豊後水道が交わる海域のため種類が豊富だが、来館者はなかなか目にする機会のない海藻の全形に見入っていた。



海ゴミのコーナー。会期の前半（6月15日まで）は一般社団法人 JEAN から借りたパネルでゴミが野生生物に与える影響を中心に解説。後半はマイクロプラスチックやゴミの行方、暮らしを見直す提案など、6月7日のワークショップで学んだ内容を中心に掲示した。アンケートでも反響が大きく、個人のライフスタイルに変化をもたらすきっかけになっていることを期待する。



微生物と岩石は顕微鏡のモニター画面で観察できるよう工夫した。接眼レンズでないため感染症対策の必要がなく、幼い子どももじっくり観察することができた。

野鳥のコーナーは見晴らしの良い展望室に設置し、海星館で見られるワシタカ類の見分け方などを解説した。関崎は多くの渡り鳥が通過する場所のため、空の生物多様性にも目を向けてもらえるよう、継続・充実させていきたい。

【参加者の声】

- 魚が食卓にあがるまでの工程を知り、当たり前にある有難さを改めて感じた。
- 海を漂流するゴミが海の生物の命を奪っていることを知った。世界中の国が協力してゴミ問題に取り組み、子どもたちに美しい地球を残さなければならない。
- 海は広く、未知なるもので満ちている。

【事業全体のまとめ】

海の安全講習は、現役の海上保安官から直接教えてもらうことができ、参加者にとっても貴重な経験になったと思う。また、海上保安部からも「市民とふれあう機会を与えてもらってありがたい」との言葉をいただいた。

海岸清掃は従来から自主イベントとして細々と行ってきたが、ゴミ被害の最新データや画像が手に入らず、説得力に欠けているように感じていた。今回、30年以上海ごみ対策の普及活動に取り組んでいる団体の指導を受けられたことで、参加者に最先端の知識と質の高い学び合いの機会を提供することができ、我々も今後の活動に生かせる手法を学ぶことができた。

紹介ブースは多様な分野の専門家からデータや標本を拝借し、助言を賜ることができ、多くの来館者に佐賀関の自然の豊かさと、地球が抱えている問題の一端を知ってもらうことができた。館内アンケートにも「顕微鏡で色々なものが見られて感動した」、「海に流されたゴミで生きものが死んでしまうということを知り、ポイ捨てをしないようにしたい」などの感想があった。製作期間が短く、伝えたい情報を十分に紹介できたとは言えないが、今後も専門家と協力して内容の充実を図り、効果的に来館者に伝える方策を模索したい。

主な連携・協力先について

連携・協力先名称	連携・協力の内容
1. 大分県貝類談話会	関崎の貝と世界の貝類の標本・情報提供
2. 大分生物談話会	微生物、植物、地質等のサンプル・写真・情報提供
3. 日本野鳥の会大分県支部	海星館で見られるタカ類の写真・情報提供
4. 大分海上保安部	海の安全講習の指導
5. 大分県農林水産研究指導センター水産研究部	大分の海と漁業に関する写真・情報提供
6. さがのせきローカルデザイン会議	イベント実施時のスタッフ

※主に教育機関や地域団体、他館などを中心に記載。表が不足する場合等は適宜増減すること

主な広報結果について

掲載媒体名	見出し、掲載日
1.	
2.	
3.	
4.	
5.	

※TV・新聞・雑誌等、主なものを中心に記載。表が不足する場合等は適宜増減すること

以上